資料③

民間懇話会　ひと分科会　概要（主な意見）

●開催日時　　平成３０年１月３０日（火）　１０時００分～１２時００分

●主なご意見

【子育て】

・学校や家庭だけが頑張るのではなく、地域が温かい目で子どもを見守る環境があるとよい。
・地域において、子どもと関わる中で、自分の能力を活かす人が増えるように、積極的に活動・交流の場をアピールしていくとよい。
・４人に３人は、自分の育った市区町村以外で子育てするアウェイ育児となっている。
・結婚しない、結婚できないといった理由からも人口減少が進むと考えられ、結婚に近づけるようなサポートが必要ではないか。
・大人世代は、次世代に世界を残すために頑張らなくてはいけない。そのため、子どもの教育への投資は、費用対効果などを求め過ぎない方がよい。
・9割近い人が結婚して子どもを持ちたいと思っており、それに応えられる環境が必要。
・人の繋がりを大事にする必要がある。
・子どもを朝、送り出し、帰る頃に笑顔で迎えられるような社会ができると岐阜市も活性化するのではないか。

【教育】

・小中一貫教育やコミュニティスクールを進めることは、世代間交流やコミュニティ充実の観点から有効である。
・貧困家庭などが、子の世代へ連鎖することや地域から孤立することが問題である。貧困は、お金の有無もあるが、それ以上に、保護者がどう子どもに接しているか、どう育てているかが重要であり、この問題に対して、小中学校がどう関わっていくか、課題である。
・子どもは、学校が終わってから行く場所がない。商業施設であっても、安全安心な場所であれば、よい社会勉強になるのではないか。
・プログラミング教育は、2020 年から義務教育となっているが、教える側の準備が大変なため、先生へのサポートがあるとよい。
・知の拠点として、市内の大学だけでなく、中部圏の大学なども関わることができるとよいのではないか。
・中学生が小学生を教えるといったことも大事である。教育の中には、子育てという考え方も必要である。
・学校に地域の人や、高齢者が関わり、お互いが繋がると面白い。
・開かれた小学校のよい効果をいろいろと聞くので、開かれた学校が地域の拠点となっていくとよい。

・親が、力不足ではないかと感じている。子どもは学校で学ぶので、親も学ぶことが重要なのではないか。
・小学校のキャッチフレーズにある「笑顔いっぱい」は、学校だけでなく、地域においても必要である。

【ひとの尊重・生きがい】
・高齢者の生きがいとして、子育てなどに携わり、地域全体が家族といった考え方があるとよい。
・社会福祉協議会で、高齢者世帯を巡回して声掛けをしている。顔馴染みができると声を掛け合えるようになり、親世代と次の世代がつながるようになる。そのような繋がる力を育てていくことが大事である。

【医療】
・住みやすい地域や在宅医療の需要が高まる中、病気からスムーズに社会復帰できる環境が必要である。
・就労可能人口が減少する中、がんの 5 年相対生存率が上昇し、また、がんと診断された人の約 8 割が引き続いて就労の希望を持っているなど、がん患者の生計維持や生きがいの視点からも、がんになっても働き続けられる環境が必要である。

【健康】
・死因の 8.4%が自殺であり、対策が必要である。
・認知症は増えており、外見からは気づかないことも多い。早く発見できれば、進行を抑えられるため、認知症に対する予防対応などに目を向けた施策も必要。
・高齢の方の認知症予防のためにも、お年寄りが直接コミュニケーションをできるような仕組みづくりが必要ではないか。
・健康とは、肉体的、精神的、社会的に満たされた状態のことであり、社会の中で、人とつながることが社会的に満たされた状態を維持することにつながる。

【福祉】
・発達障がいは、周りがどのように育てるか、ということも大事である。いろいろな子どもが当たり前にいる、という感覚を身に付けることが大事である。